

- 1 会議名 令和 7 年度第 2 回学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和 7 年 12 月 11 日（木）14 時 00 分から 15 時 30 分まで
- 3 開催場所 磐井中学校校長室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 入駒 智、菊池達也、小野寺邦芳、小野寺康光、鈴木綾子、澤田直哉、加藤 清
 - (2) 事務局 須藤 淳、立花公樹、笠神康史、菅原隆宏、門下希理子
- 5 議 題
 - (1) 学校評価アンケートについて
 - (2) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1 人
- 8 議事内容
 - (1) 学校評価アンケートについて

事務局：学校評価アンケートの結果を見ると、「筋道を立てて考え、根拠を話することができる」の項目についての評価が、生徒、保護者、教職員のすべてで、低い数値となっている。授業だけではない横断的な活動をとおして、成長を促すようにしていきたい。

事務局：「基本的な運動、食、生活習慣を身に付けている」の項目は、生徒、保護者ともに 8 割以上の高い評価となっているが教員の評価は、7 割程度となっている。本日は、この項目を中心にし、さまざまな視点から委員の皆様の考えをお聞きしたい。

委 員：最近の中高生は、朝から晩までずっとスマートフォンを握りしめて過ごしている。例えばわが子は、好きな音楽コンテンツを流しながら勉強しているので、やめるように声をかけているが、中学生の時から変わらない。

委 員：動画サイトを使って学習をしている時もあるので、親としての判断は難しい。自分の得意分野を発表する場面として、SNS を使っている生徒も見受けられ、頑張っているなどと思う。ただし、学校側の SNS に対する指導の理解を深めたいと思っているので、どんどん周知してほしい。

事務局：SNS 関係は、学校としては被害や加害を確かめようがなく、生徒からさまざま話を聞くことはできるが、それ以上の指導は難しい。早急に対応する必要がある場合は、直接警察に相談してもらっている。

委 員：生徒が考える機会を設けることで、良いことと悪いことを判断できるようにしていく必要がある。

委 員：食育分野になると思うが、朝ご飯について調査結果はないか。

事務局：体力テストで朝ご飯を食べているか調査しているが、今のところ、学校全体で共有はしていない。

委 員：生活習慣、SNS に関する教員の評価と保護者の評価の数値のギャップが問題だと思う。

委 員：中学生ぐらいの年代だと、遅刻する生徒の責任というよりは、親としての責任が大きいと思う。

委 員：部活動について、無所属の生徒の傾向はどうか。

事務局：増加の傾向にあり、運動面についての懸念ある。野菜を残す生徒も多くなっている。遅くまでクラブチームの練習をしているから、勉強ができなかったと理由にする場合もある。

生活リズムが自分たちのころとはかなり違ってきているように感じる。

事務局：人権講演会について、いじめといじりの違いは、信頼関係の有無であるという話をしてもらった。この説明で生徒の理解が深まり、そうだったのかと振り返ることができた。

委員：生徒会通信を読んだ。文章や構成も優れていたし、ボランティア活動にさまざまな取り組んでいるところに好感をもった。

委員：昨年度は、学校評価の設問が具体的でわかりやすかった。今回は、抽象的な表現が多い。また、今回は議論のテーマ自体が抽象的であったと思う。参観授業は、グループ学習やペア学習など、生徒の活発さが見える授業となれば、生徒の違った面も見えたのではと思う。

委員：地震が起きたらまず津波が来るということを沿岸の人達は最初にわかるが、内陸部の人間はわからない場合もある。自分の命を守るための防災教育は大切である。

事務局：1年生は内陸地震についての講演を聞いたり、実際に陸前高田市にいった見学を行ったりしている。さらに考えを深めていくことは必要だと思う。

委員：金融教育が3年前より義務化されているが、磐井中学校の現状はどうか。資産投資にも関わっており、リスクもあることなので、情報として与えることは必要だと思う。

事務局：金融について仕組みは社会科の中で学習するが、それ以上踏み込んだ学習については進んでいないというのが正直なところである。

(2) その他

事務局：次回は2月を予定している。

9 担 当 磐井中学校 副校長 立花公樹
電話 23-5233